

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

.理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

.サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。

各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに を付け、適宜その内容を記入すること。

「取組みの事実」は必ず記入すること。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。

(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。

関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホーム・コミュニティーハウス北条

(ユニット名) 2階

記入者(管理者)
氏名 和田 博文

評価完了日 平成 19 年 9 月 21 日

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価)		
			地域性や利用者の特性に合わせホームの理念を作成し、それに基づき支援をしている。		なお一層、理念の周知徹底・実行していくと共に、常に振り返り、見直せるようにする。利用者・家族・地域の方の本当の声に耳を傾け、今の理念をもっとより良くしていくと共に、利用者・スタッフが地域に貢献できるような事も考えていきたい。
			(外部評価)		
			今年、事業所の理念を見直し、「地域と共に利用者が当たり前暮らせる社会づくりに取り組む」と掲げて、日々取り組んでおられる。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価)		
			事務所やリビングの目に付きやすいところに理念を掲示すると共に、毎月の職員会やカンファレンス時に理念について話し合い、スタッフの意識統一をはかっている。		
			(外部評価)		
			職員会やカンファレンス時に、必ず理念について話し合うようにされている。		
3		家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価)		
			家族や地域の方が見やすいホームのリビングに明示すると共に、家族会や運営推進会議で理念について説明し理解を得ている。また、入居時や家族の面会時にも理念についての説明を行なっている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		<p>隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議や納涼祭等、地域の方に参加して頂くことで、交流をはかっている。また、普段の生活の中でも、挨拶や立ち話等積極的にしている。近所の子供が遊びにくることが多く、利用者は喜んでいる。</p>		<p>行事以外、普段からの付き合いを大切に、ホームと地域が支え支えられる存在でありたい。</p>
5	3	<p>地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>(自己評価) 地域の学校行事等には参加させていただいているが、自治会活動等への参加はあまりできていない。運営推進会議を通じて、地域の防災組織や地域サロンとの交流の道筋ができた。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議を通じ、地域との交流が始まったところである。事業所の納涼祭には、地域の方々に参加いただいた。近所の小学生達が立ち寄って遊んで行くこともある。</p>		<p>地域の催しや、老人会等との行事に参加していきたい。また、特に地域サロンとの交流会には力をいれていきたい。</p>
6		<p>事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議で地域の方々との話し合いをもっており、その中で地域の高齢者の思いや求めている事、また事業所が出来る事について考え取り組んでいけるように、地域の方と話し合っている。今後は介護相談や介護教室、救急法の講習会等地域の方と一緒にこなっていく予定である。</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	<p>評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 職員会やカンファレンスで自己評価・外部評価の意義を伝え、自己評価表に基づき一つ一つ見直していくことで、日々、自分たちが行っている事の再確認・改善等することができた。しかし、継続性がなく、自己評価・外部評価の期間以外では見直すことを忘れていたことがあった。</p> <p>(外部評価) 今回の自己評価は、職員全員で取り組み、話し合いの中で、これまでの取り組みの振り返りをされた。前回の評価結果を受けて、家族への報告について写真や電話、声掛け等で報告を頻繁にできるよう取り組まれた。又、ご家族とご本人との関係性が修復できるよう取り組みもなされている。</p>		<p>自己評価・外部評価の期間だけではなく、日頃から意識することの大切さを話し合い、継続して見直し・改善・実行していくことが大切である。</p>

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報 告や話し合いを行い、そこでの意見をサー ビス向上に活かしている	(自己評価) 出来る限りスタッフは会議に参加し、地域の方、家族 等の生の意見を聞き、実際に活かせる様に努めてい る。参加できなかった職員には職員会や議事録を明示 する事で、意識の共有をはかっているが、まだまだ運 営推進会議の重要性が理解できていない感がありサー ビスにつながっていない。		運営推進会議の意義を話し合い、スタッフも積極的に 運営推進会議に参加する。会議の議事録も話し合いの 内容ではなく、地域住民・家族・利用者等の声を明記 することで、スタッフにも伝わりやすく今後のサービ スに活かせてくるのではないかと思います。
			(外部評価) 運営推進会議時、地域の方からアドバイスをいただ き、事業所の前の道路にできた水溜りを、市に改修し ていただいたようなこともある。		出席者の日程調整等のこともあり、開催に難しい面も ある現状で、今年度、会議は開催されていない。会議 を活かして事業所の質の向上に向けて取り組めるよ う、関係者とも話し合いながら、すすめていかれるこ とが期待される。
9	6	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議 以外にも行き来する機会をつくり、市町村 とともにサービスの質の向上に取り組んで いる	(自己評価) 運営推進会議以外での関わりは少ないように感じる。		待ちの姿勢ではなく、グループホームの方から、積極 的にアクションをかけ市町村との連携等はかかっていき たい。
			(外部評価) 市の担当者に運営上のこと等、相談することがある。		
10		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業 や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、 個々の必要性を関係者と話し合い、必要な 人にはそれらを活用できるよう支援してい る	(自己評価) 一部の職員は研修等に参加し学んでいるが、全ての職 員がそれぞれの制度のことを周知してはな い。現在、権利擁護事業を利用している方がおり、そ の関係者とも定期的に連絡をとり連携できている。		外部・内部の研修等に参加し、知識を得ると共に、今 後対象となる利用者がスムーズに制度を受けられるよ うに努めていく。
			(自己評価) 内部・外部の研修会に参加すると共に、定期的に職員 会で話し合うことで、常に意識し虐待防止に努めてい る。また、普段の業務の中でもスタッフ同士確認し あうようにしている。		
11		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法 について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や 事業所内で虐待が見過ごされることがない よう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 内部・外部の研修会に参加すると共に、定期的に職員 会で話し合うことで、常に意識し虐待防止に努めてい る。また、普段の業務の中でもスタッフ同士確認し あうようにしている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		<p>契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>(自己評価) 契約時には、契約書・重要事項説明書等に基づいて、説明すると共に、家族の希望や悩み、不安等聞いている、またそれ以外でも面会時や家族に連絡したときにも何うようにしている。解約時は今後の利用者の生活や家族の不安等、利用者・家族と話し合い、利用者又は家族に負担が無いように努めている。</p>		<p>全スタッフが、契約書・重要事項説明書の内容・意味を理解し家族に説明できるようにする。また、個別の担当者がパイプ役となれるように、より家族との関わりを密にとっていくことが大切である。 地域の他事業所との関わりを増やし、利用者が退去したあとのサービス利用をスムーズに行なえるように努める。</p>
13		<p>運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>(自己評価) 利用者や、その家族の声はきちんと記録に残し、今後のケアに活かせるように職員会やカンファレンス、申し送り時に話し合うようにしている。利用者が自分の意見を言いやすいように利用者と一対一の場を作る機会を多く持つようにしている。</p>		
14	7	<p>家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>(自己評価) 家族の面会時に日常生活の様子を伝えている。又、個別の担当が月1~2回は家族に及びレター等で報告している。病院受診の際の結果はその都度家族に連絡報告している。</p> <p>(外部評価) ご家族へお手紙や電話等で定期的に報告されている。利用者の写真を多く撮影し、日常の様子を伝える等、工夫されている。足遠くなっていたご家族が、訪問してくださるようになったような事例もある。</p>		
15	8	<p>運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>(自己評価) 家族が意見や苦情を言いやすいように、スタッフの方から話題を出し、家族の思いや気持ちを聞くようにしている。又苦情ポストや家族会を通じスタッフに言いにくい家族の思いを表せるようにしている。不満、苦情等は記録に残し、迅速に対応できるように、カンファレンスや職員会で話し合うようにしている。</p> <p>(外部評価) ご家族の意見を引き出すために訪問時等、職員の方から積極的に声をかけるようにされている。現在は、意見等はあまり出されていない。</p>		<p>家族に負担がかからない程度に、家族会の開催回数を増やし、家族が発言できる機会を増やせるようにする。 なお一層、家族との関わりを密にとると共に、不満・苦情等承った時は迅速に話し合い対応するとともに、その結果をきちんと家族に説明し納得を頂く。</p> <p>さらに、家族会や運営推進会議、又、評価実施時の家族アンケートの結果等を話しのきっかけに、意見等を出していただけるよう働きかけてみてはどうか。</p>

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 職員会やカンファレンス時には必ず、運営者・管理者が参加し職員との意見交換を行うとともに、常に利用者第一に考え運営について話し合っている。		各ユニット合同で行う事で、運営者・管理者・スタッフ皆が意見や運営方針を共有できている。
17		柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 職員にも負担がかからない程度に、勤務表を作成するとともに、出来る限り人員を確保しておく事で、利用者や家族の要望にも柔軟に対応している。		
18	9	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) なるべく利用者への負担がかからないように努力はしている。しかし、現状は厳しく、職員への負担は多く掛かっているのが現状である。職員の異動や離職に対しては、スタッフとよく話し合い、利用者へ与えるダメージの軽減に努めている。		
			(外部評価) 1年間の間に職員の離職・異動はなく、利用者と職員は馴染みの関係となっている。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修等参加できる時には参加し、職員会やカンファレンスにて研修報告を行っている。また、日々の業務の中で、スタッフが知りたい事や興味があることを聞き、それをテーマに定期的に勉強会を行っている。		人員や時間等の都合で、外部研修の参加回数が少ないように感じる。利用者への負担がかからない程度に、研修等への参加に努めていきたい。
			(外部評価) 法人代表者・管理者も職員が外部研修を受講できるよう積極的に勧めておられる。又、職員も研修への意欲があるが、現在は、勤務スケジュールの関係もあり受講は少な目である。		職員のスキルアップから事業所のさらなる質の向上を目指していかれることが期待される。研修の計画や報告のあり方等、工夫を重ねていかれることが期待される。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	<p>同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	(自己評価)		
			<p>研修・勉強会・交流会等を通じて、サービスの質向上に努めている。 毎月の地域会議に出席し、積極的に意見交換をしている。</p>		<p>地域の同業者との相互関係を大切にシケアの質向上に努めていきたい。</p>
			(外部評価)		
			<p>現在は、他のグループホームとの交流やネットワーク作りの機会は少な目である。</p>		<p>さらに、貴事業所の質向上に向けてネットワーク作り等、同業者と交流できるような機会を増やしていかれることが期待される。</p>
21		<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	(自己評価)		
			<p>新年会・忘年会・定期的な食事会等を行いスタッフが本音で話し合える場を作っている。又、日々の業務の中でも、随時話し合いを持つ事で、スタッフの思い、希望、悩み等も尊重できるように努めている。</p>		<p>職員会やカンファレンスでの意見交換や日々の業務の中で管理者と1対1で話し合うなどし、ストレスの軽減に努めている。</p>
22		<p>向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	(自己評価)		
			<p>職員会や日々の業務の中でも、スタッフからの提案や意見が積極的にあり、それを受け止め開催するとともに、運営者・管理者・スタッフ皆が協力して行う事で、運営者はスタッフの努力や実績を把握できている。スタッフの行動を認めている事でスタッフも向上心を持って出来ている。</p>		<p>研修や勉強会への参加を、もっとしていきたい。</p>
<p>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p> <p>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>					
23		<p>初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	(自己評価)		
			<p>入居前には、かならず事前訪問を行い、本人が困っていることや、不安な事、求めている事を聞き、受け止めるようにしている。又、必要があれば家族も泊まれるように寝具等の準備もしている。</p>		<p>表情や態度、言動等、よく観察し利用者の要望を受け止められるように努めていく。</p>

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
24		<p>初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>事前訪問時には家族や本人を取り巻く方々からの意見も良く聞き、本人・家族が安心してサービスを受けられるように、しっかりと家族の思いを聞くようにしている。又、入居後も密に連絡を取り合い、本人の状況を説明する事で安心してホームを利用出来るように努めている。</p>		<p>これまで以上に、家族との連絡を密に取り合い、信頼関係を構築していく。家族が話しやすい環境作りに取り組んでいく。</p>
25		<p>初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>本人や家族が何を望んでいるのか、どうしたいのか、時間をかけて聞き、それに見合ったケアをあらゆる方向から考えている。</p>		<p>本人や家族が不安にならない様に、しっかりと話し合いの場を作る。また、それを継続して行えるようにする。</p>
26	12	<p>馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>事前訪問や事前の見学、体験入居、入居時の家族との宿泊を通して利用者が徐々にホームでの生活に慣れていくように努めている。入居して間もない方は、そっと一人の時間を過ごしていただいたり、関わりを密にとる事で少しずつホームに慣れるように対応している。又、本人が大切にしている物を生活の中に取り入れ今までの生活と変わりなく過ごせるような工夫をしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>ご本人やご家族が納得して入居に至れるよう、事業所を見学していただいたり、体験入居等も受け入れておられる。</p>		<p>家族や本人の周りを取り巻く方々との関わりも密に取り、利用者第一に考え、利用者の新たな生活のスタートが今までと変わらないものであるように努める。</p>
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>常に相手の立場にたって考える介護を心掛けているが、時々初心を忘れてしまい利用者に迷惑をかけてしまうことがある。分からない事は、スタッフの思いで行動するのではなく、まず利用者に聞く事を忘れずに行っている。まずは利用者と同じ向き合う事を大切にしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>調査訪問時、職員が利用者に相談されたり、教えてもらつような場面がつかえた。</p>		<p>今後も利用者とは正面を向き合っ、お互いの気持ちを理解し合いながら生活していく。</p>

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 今まで本人を支えていた家族の悩みや思いを、しっかりと受け止め、家族自身が負い目を感じないように、関わりを持つ。それと共に、今後の利用者の人生を家族・スタッフが一緒に支えあえるような関係作りをしている。		家族との関わりを普段からもっと取っていく。外出や行事等に参加していただき、利用者の普段とは違う表情を見ていただくことで、家族にも介護の楽しさを感じていただけるように支援する。
29		本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 面会時にホームでの生活の状況をお伝えしたり、在宅で暮らしていた時の本人の好きな事等を聞いたりして、情報交換している。遠方の家族や面会が遠のいている家族に対しては、電話やレター等で連絡を取り合い、情報を得たり、様子を伝えたりしている。イベント等には家族を招き一緒に活動する事で、新たな利用者の一面を見ることが出来た。		
30		馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの商店や理美容院、お寺など利用者からの希望があれば訪問等行い、つながりを大切にしている。馴染みの人もホームに来やすいように、ホームの屋内外の環境整備等も行っている。		公民館や老人会などの催しがある時には積極的に参加し、地域や昔馴染みの方との交流を図っていきたい。
31		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 利用者同士の会話や行動は温かく見守り、必要があれば、スタッフも間に入り関わりを持てるように努めている。居室等で一人でこもっている利用者については、スタッフが訪室し関わりを持っている。		利用者の共通する趣味や得意な事を見つけだし、そこから利用者同士の関係性向上をはかっていきたい。
32		関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 退所後の利用者や家族とも出来る範囲中で関わりを大切にするとともに、介護相談やサービス等の紹介・説明を行っている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p>					
<p>1. 一人ひとりの把握</p>					
33	14	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>(自己評価) 普段のコミュニケーションの中で、本人が希望していることを探るアプローチをしている。また意思疎通の難しい方についても、家族さんから以前の暮らし方、好きなこと嫌いなこと等を伺い、本人さんの思いに少しでも近づけるように努めている。</p> <p>(外部評価) 少人数での外出や夜勤の時間帯等を利用し、日頃から利用者とゆっくりお話する時間を設け、思いや意向の把握に努めておられる。利用者の表情の変化や様子についてカンファレンス等でも時間をかけて話し合い、ご本人の気持ちについても把握しようとされている。</p>		
34		<p>これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>(自己評価) 入居時や事前訪問時に家族や本人、関係した他事業所のスタッフから情報を得ている。入居後も、日々の生活の中やコミュニケーションの中から本人の歩んできた人生を聞き出し、それをケアにいかしている。</p>		<p>本人や家族から得た情報を、介護記録だけに残すだけではなく、個別ノートを作り残していく。ケアプラン等でもう少し本人の生活暦を活かせる様なプラン作りをしていく。</p>
35		<p>暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>(自己評価) 日々の利用者との関わりや、毎日のバイタル測定、表情の観察等から、利用者の状態を把握している。それをきちんと申し送っていくことで、スタッフ皆が共有できている。利用者一人一人のお気に入りの居場所を把握し、利用者に見合った関わりをしている。</p>		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
36	15	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 日常の会話の中から、好きな事を聞いたり、家族より情報を得たりしている。それに基づきケアプランを作成している。しかし、カンファレンス時に家族や本人の参加はなく、作成したケアプランを家族や本人に報告するだけになっている。</p> <p>(外部評価) ご家族や関係者の意見、日々の情報を踏まえ、カンファレンス時、職員で活発に話し合いを行い、計画を作成しておられる。</p>		<p>家族・利用者のカンファレンス参加をすすめ、より家族や利用者の本当の声を聞きだせるように努める。</p>

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
37	16	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 家族の希望や思いは普段から聞くようにしている。本人からも普段の生活の中で思いを聞くようにしているが、ケアプラン作成時にはスタッフ間で相談し家族には報告のみしか行えていない。		日々の生活と連動したケアプランを作成していく必要がある。見直し時には、家族・利用者参加の上、利用者の変化や家族の思いを聞くようにし継続性を持って行っていきたい。
			(外部評価) アセスメントは6か月ごとに見直し、介護計画は、3か月ごとに見直しされている。状況の変化時には随時見直しされている。		
38		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 利用者個々の健康面や精神面、排泄チェックや食事量のチェック、日々の活動状況を区別して書き、日中・夜間が連動した記録を残している。特に利用者の日々の生活の中での声を大切に、記録を残しスタッフが共有できるように、朝夕の申し送り時に報告している。		日中・夜間が連動した記録は残せているが、それがケアプランに反映されていない事が多い。今後は、その記録を基にケアプランの充実を図っていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 本人や家族とのコミュニケーションを図り、思いや悩み等聞きだし、事業所で出来る支援を、スタッフ・管理者・ケアマネ・または必要とされる他事業所を含めて話し合いをしている。		今後は、事業所だけではなく、地域の方にも協力していただき、より多機能性を高め、個々のニーズに応じられるように努めていく。
			(外部評価) 理美容店の利用等、個々に合わせて支援されている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 運営推進会議や地域の催し等で区長さんや民生委員さん等と関わりをもっている。避難訓練やインターンシップの受け入れ、交番への定期的な訪問を行い、利用者が安心して地域で生活できる基盤づくりに取り組んでいる。		地域のボランティアや、近隣の子供達との交流をはかり、その中で協力・支援がより一層出来るようにしたい。特に今後は地域サロンとの交流に力を入れていきたい。
41		他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 現在は、その様な取り組みはされていないが、本人の希望があれば、他のサービスを利用する為の支援は可能である。		利用者の希望があれば、すぐに対応できるように地域のケアマネや民生委員との情報交換ができる関係作りをしていきたい。
42		地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 運営推進会議や地域会議等で地域包括支援センターとの連携は徐々に出来つつある。		なお一層、地域包括支援センターとの連携をはかり、利用者から要望があった際には、迅速に対応できるようにする。
43	18	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 入居時に、家族や本人に希望する医療機関を伺っている。出来る限り、本人・家族の意向を尊重しかかりつけ医への受診をしている。医師とは、医療と介護の両面からお互いを尊重し本人の声を医師に伝えるようにしている。24時間対応可能な医師とは常に連絡を取り合える関係が出来ている。 (外部評価) ご本人やご家族の希望を聞き、対応されている。利用者の個々のかかりつけ医療機関に継続して受診できるよう事業所では、送迎等もされている。		より密度の濃い、連絡連携体制をとり、本人の状態に応じた医療を受けられるように支援していく。
44		認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 常に連携を取り合い、利用者の変化を敏感に感じ取り医師に相談できる体制作りが出来ている。医師もほぼ毎日ホームに往診に来てくださるため、利用者の状態が良く分かっており、利用者も気遣い無く医師に相談できている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
45		看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 週1度、協力医療機関の看護師の訪問がある。健康チェックや、バイタル測定、日々の状態の相談にのって下さり、それにより医師との連携がより良くなった。利用者の急変時にも迅速に対応して下さる。また、利用者一人一人に健康管理に対するアドバイスもしてくれる。		
46		早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 利用者が入院した場合は家族への協力をお願いしたり、随時面会に伺い利用者に安心してもらえるように取り組んでいる。また、医療機関の医師や看護師と情報交換したり連絡を取り合う事で早期に退院できるように努めている。入院設備のある地域の病院とは、日ごろから連携を取り合い、利用者の急変時には協力頂けるようお願いしている。		
47	19	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 入居時から、ターミナルケアについての話を家族にしている。以後も定期的にターミナルケアについての話をすることで家族には理解を得ている、急変時や終末期の家族の混乱・不安を考慮しグループホームでの環境を整えたり、かかりつけ医との連携は普段から密にとっている。また、混乱時に、いくつかの選択肢も準備しておき家族が判断しやすいように取り組んでいる。 (外部評価) 重度化した時のことや終末期のことについて、ご家族やご本人の希望等をうかがい、入居時や訪問時に、ご家族とその都度お話をされている。		本人や家族の考えや希望を十分に話し合い、かかりつけ医にも、その事を報告し本人に関わるすべての人が方針を共有できる体制作りに取り組んでいく。
48		重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 主治医や家族・スタッフと良く話し合い、今後の治療やケアをどうして行くのか方向性を決め、それに向かって取り組むと共に、終末期の本人・家族の不安やパニックを軽減する為に、グループホームの環境を整え安心を得れるように取り組んでいる。		終末期ケアのできる環境を整え、家族や本人の終末期ケアにおいての選択肢を広げられるように努める。
49		住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 本人や家族の意見を聞きながら、出来る限りの支援をしていく体制作りを取っている。又、関わっていく関係者への情報交換はしっかりと行っている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>					
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>					
<p>(1) 一人ひとりの尊重</p>					
50	20	<p>プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>(自己評価) 一人一人の性格や個性等、把握しその方に合わせた声掛けや関わりをしている。個人情報の保護については、入居時に家族や本人に個人情報保護の説明をし記録や必要な情報が外部の人、又は他の利用者や家族に情報が漏れないようにする事を伝え、それを実行している。</p> <p>(外部評価) 職員の言葉かけは、声のトーン等にも配慮がうかがえ、職員は利用者との距離間等にも配慮しながら対応されていた。</p>		
51		<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>(自己評価) 自己表現が中々出来ない方も、いくつかの選択肢を出すことで、自分で決めたりする事ができる場面もあり、色々試しているところである。基本的には全ての場面で利用者の意見を聞くように心がけている。</p>		
52	21	<p>日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>(自己評価) 利用者中心の生活が出来るように、特に業務マニュアルは作っておらず、スタッフは利用者のペース・希望に応じて柔軟に対応できるようにしている。利用者個々のペースを把握しているが、知っているから先に動くのではなく、利用者の言葉や仕草を見ながら、一緒にしたり見守ったりしている。</p> <p>(外部評価) 調査訪問時、ゆっくり食事をされる方、テレビを楽しまれたり、おしゃべりをされている方、居室でネコと横になって休まれている方等、それぞれがご自分のペースで過ごされていた。</p>		<p>利用者のペースに合わせているが、その人らしさが出されていない時があるので、気を付け、利用者の希望に添った支援をしていくように努める。</p>

自己評価及び外部評価票

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は 取組みを期待 したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 本人の希望や、馴染みの店がある場合は、その店と一緒に好き好みの物を購入している。出来る限り、馴染みの店に行くようにしているが、遠方の利用者や馴染みの店がない利用者については、本人の希望にあった店に行き、本人を選んで頂いたりしている。理美容院も同様である。服装などは更衣時に利用者と一緒に選んでいる。		利用者の体調に気を配り、支援している。 自分から言えない人や、意思疎通が困難な方には、スタッフの方から声掛け等行うようにしている。
54	22	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者個人個人の出来る事・出来ない事を見極め、出来る事は手伝って頂いている。食事時間も、出来る限り個々のペースに合わせ、利用者の好み等も把握している。 (外部評価) 水曜日・木曜日は、利用者のリクエストで献立を決めるようにされている。調査訪問時、利用者と職員がお話をしながら食事されている様子がうかがえた。		食事の時間・下膳のタイミング等に気を付けたい。
55		本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) お酒・タバコ等については医師や家族からの制限がない限り、基本的に自由である。しかし、時間等については配慮していただいている。喫煙場所は換気がしやすい危険物がない所に設置し匂い等がこもらない様に気を配っている。		喫煙時の火の管理や後始末等の再確認を徹底する。
56		気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 利用者個々の排泄チェック表を作成している。排泄のパターンは把握している。その日の利用者の体調や行動を見ながら、トイレの声掛けをしたり誘導している。訴えがある人に対してはその都度、訴えがない人に対してはチェック表を基に時間的に誘導している。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	23	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価)		
			24時間いつでも入れるようにしている。利用者からの訴えがある時には、すぐに対応している。訴えない人に関しては、時間やタイミングを見計らって声掛けしている。入浴時間は余裕をもってゆっくりと入浴出来るように支援している。		入浴介助方法等の勉強会を行い、利用者が安心して入浴できる方法を学びたい。 入浴できない方に対しては清拭や足浴等行っている。
			(外部評価)		
			24時間風呂で、利用者の希望や必要があれば、いつでも入浴できるよう支援されている。		
58		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価)		
			利用者のペースや体調、又は前夜の睡眠状態を考慮し対応している。夜間等、寝付けない方や不安がある方に対しては、スタッフが時間をかけて関わりを持ち安心して頂けるように努めている。居室の温度や室温、音等には気を配っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価)		
			ストレスが溜まりやすい方に対しては定期的に外出や外食、買い物等、本人の好きな事が出来るように支援をしている。又、他の方についても外出する機会を多く持ち、ストレスが溜まらない様に努めている。ホーム内で自分の役割を持っている方については、十分に自分の力を発揮して頂き、その事に対してスタッフも感謝するように努めている。		訴えが少ない方に対しての支援がおろそかになっている事がある為、気を付けたい。
			(外部評価)		
			犬の散歩、ねこの世話、洗濯物を干したりたたんだり、食器洗い等、利用者一人ひとりの力を活かせるよう支援されている。		
60		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価)		
			金銭管理が可能な方や家族から、お金の管理について了解が得られている方に対しては、自分でお金を使うように支援している。また、管理が難しい方に対しても、自由に使えるお金を事務所で管理し本人の希望に応じて、家族に相談の上、使用している。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
61	25	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価)		
			なるべく希望に沿えるように支援している。天候やスタッフの人数によって対応できないこともあるが、個別であったり少人数で外出できる機会を設けている。長距離の外出の場合は事前に利用者と一緒に予定を立て、楽しみながら計画している。その日その時の利用者の希望は迅速に対応出来るように努めている。		
			(外部評価)		
			事業所では、外出する機会を増やせるよう心がけておられ、日常的に少人数で散歩や買い物に出かけられたり、時に喫茶店やアイスクリーム、クレープを食べに外出することもある。		
62		普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価)		
			利用者の希望を受け止め、行きたい所へ行ける様に、その場所の情報収集をし一緒に計画したり家族に協力を得たりしている。計画した事は必ず実行し、利用者と一緒に喜べるように努めている。		スタッフの人員に左右される事なく、今後も支援していけるように努める。 訴えがない方に対しても、普段の生活の中から、情報を得て利用者に提案するなどして、外出する機会をもてるように支援する。
63		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価)		
			電話を掛けられる方は、自由に掛けていただいているが、家族の負担にならない程度で声掛けを行なう事もある。電話をするのが困難な方は用件を聞きスタッフが対応している。レター等も書ける方は書いていただき、スタッフと一緒に投函したり、希望があればスタッフがレターを書いている。		書ける人書けない人に関わらず、季節のレターや年賀状、暑中お見舞い等、利用者からの声を待つのではなく、スタッフの方からアプローチし家族や大切な人との繋がりをもっと取れるような関わりをしたい。
64		家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価)		
			面会時間は設定せず、いつでも面会できるようにしている。面会時は、利用者・家族等が気軽にお話できるように、好きな居場所で過ごしていただいている。挨拶やお茶だし等、利用者・家族が居心地良く過ごせるように配慮している。また、ホームのお便り(風早便り)を渡したり、お見送りをしている。		居室以外で家族と利用者だけで過ごせる場所が無い為、談話室や喫茶室等、家族と利用者だけになれるスペースを作っていきたい。今後、今まで以上に、家族や馴染みの方が訪問できるように、気持ちの良い挨拶や、心地よい居場所を確保し、気軽に訪問できるように雰囲気作りに取り組みたい。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
65		<p>身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>定期的に職員会やカンファレンス等で、身体拘束についての話し合いを行なうと共に、日々の生活の中でも、スタッフ同士が意識しあい、様々な場面で身体拘束等、本人の行動を抑制するようなケアをしていないか確認しながら支援している。</p>		<p>今後、やむなく身体拘束が必要なケースがある場合は、家族・本人・医師・職員を含め、良く話し合い、できるだけ、身体拘束を行わないケアを実践していく。今まで通り、定期的に身体拘束について話し合ったり、常日頃から、スタッフが意識することで身体拘束をしないように努める。</p>
66	26	<p>鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>利用者の行動を制限するための施錠は行なわない。日中は常に玄関を開けている。居室や玄関の鍵を閉め利用者の行動を制限したときに、利用者が感じる気持ちや、様々な弊害を職員会やカンファレンス時、又は常日頃からスタッフには話しているため、スタッフは良く理解できている。</p>		
67		<p>利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>スタッフ同士、常に声を掛け合い、利用者の所在や様子をきちんと確認しあっている。</p>		<p>夜間、定時の巡視時に利用者の居室に入るときのプライバシーに配慮する。また、居室のドアを開けっ放しにしないようにする。</p>
68		<p>注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>薬品等の管理は出来る限り利用者の手の届かない所に保管している。包丁やハサミ等、利用者も使う物はスタッフの目の届く所に保管している。</p>		<p>危険を防ぐ為に、より一層一人一人の状態を把握し未然に事故を防ぐようにする。</p>
69		<p>事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>各マニュアルを作成している、年に1度、消防署に依頼し救急法の講習会を開くようにしており、避難訓練も年に2度実施している。普段から地域の交番を訪れ、もし行方不明になったときは、スムーズに対応していただけるように連携をとっている。利用者の喫煙場所や火の後始末等きちんと確認している。</p>		<p>知識を充実させるために、勉強会や講習等、定期的開催し、スタッフの意識付けをする事により、未然に事故を防げるように努める。</p>

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 急変・事故に対する応急処置や対応方法はマニュアルを作成しスタッフ皆が確認出来るようにしている。又、年に1度消防署に依頼し全スタッフが救急法の講習を受けている。		職員会・カンファレンス等で定期的に確認し、スタッフに意識付けさせると共に、研修等に参加し知識も深めていく。
71	27	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) ホームとしては年に2度、避難訓練や消火活動の訓練を実施している、地域の方が参加するまでには至っていない。来年3月の避難訓練時には地域の方も参加する予定である。 (外部評価) 災害訓練は、夜間の体制を想定して行っておられ、次回の訓練時には地域の消防団の方の参加も予定されている。災害時、利用者の一時避難を引き受けていただけるお宅を確保されている。		運営推進会議の中で、災害時の地域との関わりについて話しあっており、今後、地域防災組織や消防団等との連携を進めていく予定である。また、災害時にホームとして地域に貢献できること(避難場所や在宅高齢者の一時預かり等)も地域の方と話し合っている。
72		リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	(自己評価) 利用者・家族には入居時や日頃から、様々な場面で起こりうるリスクについて話し合い、説明・同意を得ている。		リスクがあるから制限するのではなく、色々な方向から考え、本人・家族の希望を聞きながら、安全に実現できるように取り組む。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 毎日バイタルチェックを行っている。また、普段と様子が違ったり、表情・顔色等に変化があれば、声掛けや必要に応じてバイタル測定している。体調の変化に気付いた時には、かかりつけ医に報告するなど、適切な処置を行い、スタッフ皆が共有できるように、業務日誌等に記録をし申し送っている。		引き続き、バイタル測定や口頭での健康チェックを毎日行い、日々の体調の観察、体調が変化した時の早期発見に努めたい。又、それを、きちんと記録に残し、スタッフが確実に共有できるシステム作りに取り組みたい。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
74		服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 各個人の薬の保管や服薬の管理についてはスタッフが確実にやっている。薬の配薬や内容・副作用・量、服薬方法等は専属の薬剤師より指導を受けている。症状の変化は、かかりつけ医にその都度、報告・相談している。		専属の薬剤師や医師に相談し、利用者が飲みやすいように分包していただく。
75		便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 排泄チェック表を確認し便秘の状態を把握している。便秘気味の方には、食事や飲み物の工夫、マッサージ等を行い、薬に頼らず自力で排便出来るように努めている。		スタッフ全員が意識し日々取り組めば、より良く改善できると思う。便秘対応についてもスタッフが持っている知識や新しい情報を伝えていきたい。薬に頼るのではなく、運動・食事等幅広いアプローチをしていきたい。
76		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 口腔ケアの講習・勉強会等ができておらず、スタッフの口腔ケアに対する知識や意識・重要性が低いように感じる。利用者も毎食後、実施出来ている人は限られており、自立できている方については本人に任せている。その他の方は、一日一回就寝前等に口腔ケア、義歯洗浄を行っている。		協力歯科医に依頼し、まずは利用者・スタッフ一緒に口腔ケアに対する講習会を受け知識や意識付けをしていきたい。一日一回の方は毎食後口腔ケアできるように、自立している方は定期的に口腔内の状態を把握できるように努めていく。
77	28	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) カロリーだけを考え利用者の好みを無視するのではなく、おいしく食べていただく為に調理方法を考えたり、利用者の好みや食材・旬の物をバランスよく使うようにしている。その方の状態(排尿や便の状態、表情・顔色等)を見ながら、水分補給をしたり、促す声掛けをしている。食事チェックは毎食している。 (外部評価) 栄養士の立てた献立を参考に、利用者の好みを聞きながら献立を作成しておられる。		実際にご本人が摂取した食事や水分についての記録のあり方について、工夫をされてみてはどうだろうか。個々の実際の摂取状況を把握しながら支援できるよう、取り組まれることが期待される。
78		感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	(自己評価) 各マニュアルを作成しており、スタッフも対応は理解できている。職員会やカンファレンスでも、定期的に勉強会を行っている。予防に関しては、手洗い予防接種の他、手指消毒・食器、器具の消毒や保管方法、必要に応じて手袋の使用をしている。日々の利用者の身体・健康チェック等をしっかりと行い予防に努めると共にスタッフの健康管理にも気を使っている。		マニュアルを作成しているが、個々で読むようにしており、しばらくすると忘れてしまう事も有る為、定期的な見直しと勉強会を行い、常に意識の中にあるよう努める。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
79		食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 台所、水まわりは夜間及び随時、掃除・消毒をしている。食器・調理器具は手洗い後、洗浄器を使い清潔にしている。食材は地域の魚屋や八百屋から新鮮な物を選び、保管方法、調理の仕方にも工夫をしている。		冷蔵庫の中の整理整頓に気を付けたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
80		安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 行事がある時などは、ホーム近くの方にご案内を出したり、ポスターを作ったりして、御近所との付き合いを大切にしている。季節に応じて玄関周りの装飾を変えたり、玄関前にベンチを設置し皆が憩える場を作った。		ホーム前の道路に水溜りが出来やすく、その舗装を区長さんが直接市に掛け合ってください、改善できた。近所の子供の訪問が多くあり、利用者によく関わってください。
81	29	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節にあった壁紙や利用者が作った物を壁に展示するなどしている。テレビの音やスタッフの声の大きさにも気を付けている。照明が直接照明なので改善したい。 (外部評価) 共用空間は紅葉をあしらった壁掛け等が飾ってあった。		まずは利用者が一番心地よく生活できる為に、利用者 と相談しながら、直していきたい。 さらに、玄関は「事業所の印象」にもなるということからも、玄関まわり等の環境について職員で話し合ってみる機会とされてはどうだろうか。
82		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 共用空間が、狭くりビング兼食堂兼台所のようになっている為、共用空間の中で一人になれる場はないが、花や壁画等の飾りつけ、椅子やソファ等色々な場所に設置し居心地良く好きな所で過ごせるような工夫をしている。		利用者が居室にこもらず自然にリビングに来たくなる様な環境作りに取り組みたい。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	30	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 本人や家族の意向を尊重し、使い慣れた物、好みの物を自由に持ち込んでいただき、本人が一番居心地の良く過ごせる環境作りに取り組んでいる。又、居室の明るさや温度・湿度、空気の入換え等にも気を配っている。		
			(外部評価) テレビ・ラジカセやぬいぐるみ等を持ち込んだり、写真や自分が描いた絵を飾っているような居室もあった。		
84		換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 排尿、排便後の臭いは居室やトイレにこもりやすいので、こまめに換気を行っている。朝夕の気温の寒暖に気を付け、空気の入換えやエアコンの使用等気を配っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 手すり等は最低限の設置にし利用者一人一人の状態にあわせ、つかまる物や引っ張れる物、もたれられる物、椅子等を設置している。車椅子の利用者が自走できる場所も確保している。		手すりや、もたれる物が設置できないところを、いかに利用者が安全に利用できるか考えていかなければならない。どこにでも手すり等を設置するのではなく、利用者の身体状況や運動能力を把握し、利用者や相談しながら必要なところに設置するようにする。
			(自己評価) 居室やトイレ等には利用者から見やすい位置に名札を貼っている。居室の場所が分からなくなる方については、居室前に目印となるものをおいたりしている。		利用者が「自分でできた」と思える支援等、環境作りに取り組んでいきたい。利用者一人一人の状態を見て、必要であれば声掛け等行なう。
86		わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 居室やトイレ等には利用者から見やすい位置に名札を貼っている。居室の場所が分からなくなる方については、居室前に目印となるものをおいたりしている。		利用者が「自分でできた」と思える支援等、環境作りに取り組んでいきたい。利用者一人一人の状態を見て、必要であれば声掛け等行なう。
87		建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) ベンチや歌壇など作り、利用者が、そこでくつろぐ事ができる空間を作っている。夏場は気温が上がり、中々外に出られないため、四季を通じ利用できるような工夫が必要である。		日陰を作る工夫や、年間を通じて花がたえない様な取り組みをし、利用者の意識が室内だけでなく、外へ向くように取り組んでいきたい。(利用者の好きな花や、季節の花等を、利用者と一緒に植える)

. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己評価) ①ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	入居時、又は日々の生活中で利用者から聞きだしている。そして、その思いを最優先に日々関わりを持っている。 利用者自らが決めて一日を育めるような支援をしている。
89	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己評価) ①毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	基本的に利用者行動と一緒にしている。 その時間を作り出すために、日々の業務の見直しを職員会やカンファレンスで定期的に話し合い実行している。 食事やお茶等利用者と一緒に会話する時間を大切にしている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己評価) ②利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	自ら判断ができない方、選択できない方については、トイレ誘導や居室誘導等、利用者の表情や顔色を見て判断したり、時間的に対応している。利用者のペースを乱さぬよう、スタッフは最低限度の声掛けや関わりをしている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者個々の、好きな事・話・趣味等を把握し、それを生活の中で行なっていくことで、利用者の良い表情が見える。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (自己評価) ③利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者の希望や、要望を伺い、利用者に応じ散歩や外出等を行なっている。訴えが困難な方や、自ら訴えがない方の支援の方法が今後の課題である。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	かかりつけ医への定期的な受診や協力病院の医師がほぼ毎日来てくださることで、何かあればすぐに対応してくださる体制作りが出来ており、利用者・家族さんには安心を得ている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者の声によく耳を傾け、思いを最優先に、その都度迅速・柔軟に対応している。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (自己評価) ①ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	家族会の開催したり、日々の生活の中でも個別の担当者や対応したスタッフが、面会時、又は定期的に家族にしたりレターを送り、近況報告をしている。その時に、家族の思いや希望・悩みを聞き相談に応じている。利用者の健康管理や病院受診時には随時家族に報告している。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己評価) ①ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない	特に近所の子供の来訪が多い。地域の方も飼っている犬に会いに来たり、散歩等に行って下さる。また、近所の畑の方が残った野菜等持ってきてくださったり、ホームの畑の世話もして下さる。

項目	取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	(自己評価) 1 大いに増えている ② 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない	前年度は1度しか開催できなかったが、今年は定期的に開催するようにしている。地域の自主防災組織や地域サロン等との関わりや交流会の話が進んでいる。地域とは運営推進会議以外での関わりの方が多い。
98 職員は、生き活きと働けている	(自己評価) ① ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	スタッフの思いや悩みを聞く場が、勤務時間内やアフターにもう少し取れるようにして、スタッフ一同が自分の力を十分に発揮できる職場作りをしていきたい。利用者に癒されていることが多い。
99 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	(自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	帰宅願望が強い利用者の思いを少しでも実現できるように取り組んでいる。年齢層の幅が広く、各年代の利用者の感覚が違うため、関わりが難しいが、利用者の声を聞き対応している。
100 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	(自己評価) ① ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	まだ、家族は「見てもらっているから」という意識が強いように感じる。職員の方から積極的に関わりを持ち、家族の本当の気持ちを汲み取って行かなければならない。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
 (この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

・ 個人の意見を聞いて、個別で対応できるように心がけている。
 ・ 家庭的な環境を整えている。
 ・ 食事に関しては、季節を感じられる、メニュー作りをし、利用者のリクエストも常に取り入れるようにしている。
 ・ 年に一度、利用者・家族一緒に一泊旅行を行なっている。